

相談①

● 「熟議」のある学校運営協議会(CS)にするためにはどうすればよいか？

「CS運営で一番重要なのは校長の姿勢です」



- 校長の学校経営とCS運営は、100%重なります。
- よって、校長は「CSを活用して『地域とともにある学校づくり』をやるんだ」という意気込みが重要です。
- ただし、いくら校長が意気込んでも、校長だけでは目指す学校づくりの実現はできません。
- また、校長の「想い」だけの学校もNGです。
- 校長は、県教委や市教委の方針の具現化に向け、地域の実情や子どもたちの実態を踏まえ、そこに校長の「想い」をのせて学校運営・CS運営に取り組むことが求められます。

助言者：相田 康弘 氏
下関市立長府中学校 校長

「委員が満足して帰る会議にしましょう」

- CSでは、学校側が極力喋らないことも重要です。私は、教頭やCS担当に「学校が喋る時間を極力減らしてほしい」と伝えています。
- CSに教務主任・生徒指導主任・学力担当などが参加し、次々と説明していくような会議を本校では行いません。会議は、CS委員にどんどん語っていただき、委員が満足して帰ってもらうな会議にしないとダメです。また、細かすぎてCS委員が読めない資料を作ってしまうのがないですね…。
- また、授業と同じように複数人での協議の時間を設けることや、会議室も口の字型が一番話が進まないのてテーブルを近づけるなどの一工夫が大切です。
- 加えて、子どもをCSに登場させることも重要です。
- 私はいつも、「CSは子どもたちのための会ですよ。なぜそこに子どもの姿がないんですか？」と伝えます。
- CSを昼間に設定すれば子どもを登場させることができますが、夜のCSとなると、子ども登場させるわけにはいきません。よって、本校では生徒会の会長・副会長のメッセージを動画にし、夜のCSに登場させています。
- このように、私は毎回必ず子どもたちをなんらかの形でCSに登場させていますよ。

「私は協議内容のすみ分けを行っています」

- CSは大きな会議です。よって、会議の内容も「今年はこれが課題なんだ、これを実現させるんだ」と大きなものに限定した方がよいと思います。
- その際、大きなことを熟議する場合はCS、具体的な方策を熟議する場合は別の会議、というように、何を協議するかによって会議を変えていく必要があります。
- 内容によっては、「CS会長は来られなくても大丈夫ですよ」という会議もあります。
- そのすみ分けのマネジメント力が校長には必要です。

「学校運営協議会の前には必ず『打ち合わせ』を行います」

- 会議前には、管理職・CS担当・CS会長・地域学校協働活動推進員との打ち合わせを行い、当日の流れ・シナリオを作成します。
- シナリオを作成するというのは、行き当たりばったりの司会ではなく、「限られた時間の中で、どのようなゴールにもっていくのか」をある程度イメージした会議にするためです。ここを本校は、教頭が担っています。

「熟議は『未来に向けて』or『課題解決に向けて』の協議」

- CSで熟議をすることは、「未来に向けた協議」か「課題解決の協議」のどちらかだと思います。
- その際、大事なことは、「熟議の目的は何なのか？」と「熟議にどのようなメンバーを入れるか」です。
- CS委員さんだけの熟議もあれば、教職員と保護者・地域住民など「大人のみで行う熟議」や、「子どもたちも含めた熟議」もあります。

「何のために？」
「何を指して？」
「どのようにして？」

熟議 のススメ

多様な人々との
目標・ビジョンの共有

だからこそ
大切にしたい

CSの原点に戻り、**熟議・協働・マネジメント**の
3機能の発揮を！

熟議の目的

熟議メンバー

例1. 育てたい「子ども像」の共有

例2. 学校・地域連携カリキュラムの更新
(各発達段階で育てたい資質・能力)

例3. 働き方改革の中でもできる地域連携の方法を探る (目的の再確認)

例A. 学校運営協議会の場熟議

例B. 全教職員・保護者・地域住民で熟議

例C. 児童生徒も一緒に熟議

■ 「熟議」も、「目的」や「メンバー」のすみ分けをしないとイケませんね。相田校長資料①